

プレフォーラム 07/11/07 於：東京都町田市民フォーラム

地方自治体の 外国人施策における 市民協働の可能性を探る

—町田・相模原における広域連携の模索—

【基調報告】

「県境を超えた公共・市民協働の可能性を探る」

東京外国語大学特任研究員 明星大学教授 渡戸一郎

第1部

【パネルディスカッション】

「市民はどう動いているか——外国人相談の現場から——」

◇パネリスト（発言順）

「町田国際交流センター」外国人相談部会長 奴田原敏泰

「さがみはら国際交流ラウンジ」「カラバオ・相模原」 柿澤澄夫

東京外国語大学特任研究員

成蹊大学法科大学院客員教授 弁護士 関 聡介

◇進行

東京外国語大学准教授 塩原良和

第2部

【パネルディスカッション】

「行政の取り組みと学校を核とした新たな試みを考える」

◇パネリスト（発言順）

町田市文化・国際交流財団事務局長 笠原道弘

相模原市文化国際課副主幹 中野 繁

神奈川県立新磯高校校長 片 英治

◇進行

東京外国語大学特任研究員 明星大学教授 渡戸一郎

地方自治体の外国人施策における 市民協働の可能性を探る

——町田・相模原における広域連携の模索——

07/11/07 於：東京都町田市民フォーラム

2007年11月7日午後6時から、東京都町田市の町田市民フォーラムボランティアセンターで東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター主催の協働実践研究「渡戸・関班」のプレフォーラムが開かれました。「地方自治体の外国人施策における市民協働の可能性を探る——町田・相模原における広域連携の模索——」をテーマに約2時間行われ、五十数人が熱心に耳を傾けました。司会・進行は同センター運営委員で同大外国語学部の塩原良和准教授。

塩原良和 最初にこの「プレフォーラム」がどういうものかということについて、簡単にご説明します。東京外国語大学は多言語・多文化教育研究センターを06年度に立ち上げました。本学のリソースを社会に開き社会連携を図っていく中で、学生たちにより深い社会経験や実践的な知識を積んでもらおうということを活動の柱にしています。その中心的なプログラムとして、協働実践研究プログラムがあります。大学の研究者と社会の中で活躍されている実務家あるいは実践者の方が対等な立場で連携し、その中で実践と研究を結び付けるような成果を生み出していこうという趣旨で動き出したのがこのプログラムです。

研究プログラムは5つの班で行っていますが、今回のプレフォーラムは、その中の「渡戸・関班」が行うものです。渡戸・関班は、神奈川県相模原市と東京都町田市における行政区を超えた市民連携の在り方を研究テーマのひとつにしています。「プレフォーラム」というのは実は、12月に東大で開かれる「全国フォーラム」のプレとしての位置づけでして、この町田市の場所をお借りして開かれることになったわけです。実際に町田市と相模原市の間で外国人施策に関連する



どのような市民連携が行われ、隣り合ったこの両市で、県境をまたいでどういうネットワーク、連携が可能なのかということをご一緒に考えていきましょう、というのがこのプレフォーラムの趣旨です。

今日は、この研究班のコーディネーターの1人であり、本学特任研究員でもある明星大学の渡戸一郎先生にまず基調報告を

いただきます。その後、第1部「市民はどう動いているか——外国人相談の現場から——」と題して、実践的に活動されている3人の方に報告していただきます。休憩を挟んで、第2部でこのお3方にそれぞれのテーマでパネルディスカッションをしていただき、会場の皆様を交えながらの討論ということで進めていきたいと思っています。

それでは渡戸先生、よろしくお願いいたします。

基調報告「県境を超えた公共・市民協働の可能性を探る」

◆ 県境を超えた連携とは

渡戸一郎 私は社会学が専門で、特に都市コミュニティーの在り方について、70年代から研究してきました。当時、町田市の「23万人の個展」を調査したことがあります。一方、相模原市では、80年代前半に初代の市政調査専門員を担当させていただき、「ヘソのないまち」相模原市の魅力づくりについて研究した経緯があります。



渡戸一郎

そんな縁を思い出しながら、今回、東外大の協働実践研究プログラムのひとつとして、「県境を超えた地域連携」というテーマで、07年春からいろいろな方のお話を聞いてきました。この実践研究プログラムは08年度まで続きますので、今後とも皆様のお話をうかがわせていただきながら、さらに